

2020 年度 研究の進捗状況（筑波大学所属生）

氏名：川戸湧也（平成 28 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

大学体育における ADDIE モデルに基づく柔道授業の有効性に関する実践的研究

●論文作成

1. 川戸湧也・長谷川悦示・木内敦詞・梶田和宏・中川昭（2020）大学体育における ADDIE モデルに基づく柔道授業の有効性の検証. 体育学研究, 65 : 7575-792.
2. 川戸湧也（2020）柔道授業における授業外学修を促進する W e b サイト活用の試み. 仙台大学紀要, 51（2）: 33-42.
3. 松村樹希・川戸湧也・上水研一郎・中西英敏（2020）柔道競技の固技におけるパフォーマンス分析のためのコード開発とその検証：グラندスラム・パリ 2019 大会を対象とした試み. スポーツパフォーマンス研究, 12 : 677-687.

●学会発表

なし

●その他（研究費申請・獲得状況など）

なし

以上

氏名：山中裕太（平成 29 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

- ・水中での自己保全能力を高める大学水泳授業の設計と実践

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

- ・山中裕太・村瀬瑠美・本間三和子・仙谷泰雄・角川隆明・高木英樹
大学の水泳授業の全国的実態と授業実施の問題点に関する調査
大学体育スポーツ学研究

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

- ・山中裕太
大学水泳授業では何を学ぶのか?実態調査からの検討
日本水泳・水中運動学会 2020年次大会
2020/11/14・15
- ・Yuta YAMANAKA
What do we teach in university swimming class?: Focusing on the self preservation skills in the water.
The 3rd Korea-Japan-Taiwan University Physical Education Research forum
2021/2/4
- ・山中裕太・高木英樹
大学の水泳授業の全国的実態と授業実施の問題点に関する調査
第9回大学体育スポーツ研究フォーラム
2021/2/22

●その他（研究費申請・獲得状況など）

以上

氏名：田中耕作（平成 29 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

長距離走の能力を効果的に改善するための新たな補助トレーニング法とその指導法に関する研究

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

1. 品田直宏・熊野陽人・田中耕作・梶谷亮輔：

学生跳躍競技者におけるジャンプ能力とパフォーマンスとの関連性
—性差に着目して— 陸上競技研究, 3:34-43. 2020 年

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

なし

●その他（研究費申請・獲得状況など）

なし

以上

氏名：久保田もか（平成 30 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

表 題：教員養成課程の大学バレーボール授業における初級者のためのスパイク練習プログラムの作成

課題Ⅰ：大学のバレーボール授業におけるスパイク指導の研究

課題Ⅱ：スパイク技術の向上に有効な練習プログラムの作成

課題Ⅲ：教員養成課程授業におけるスパイク練習プログラム有用性の検証

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

・久保田もか：体育授業におけるバレーボール指導のための基礎的研究～スパイクの指導法を
探る～，バレーボール研究第 22 巻第 1 号，pp49-60，2020 年 6 月 30 日

・久保田もか：バレーボールにおけるスパイクの技術改善に向けた授業実践の一事例，長
崎大学教育学部教育実践研究紀要第 19 号，pp207-214，2020 年 8 月 1 日

・久保田もか，高橋浩二 他 8 名：体育科・保健体育科における運動観察能力のポイント
化の必要性－思考・判断し，表現する能力の育成に向けた運動学習を目指して－，長崎
大学教育学部紀要第 7 集，pp41-48，2021 年 3 月 1 日

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

・日本体育科教育学会第 25 回学会大会

発表者：高橋浩二，久保田もか，河合史菜

題 目：学校体育授業において学習が必要な運動観察能力の構成－学習成果としての
パフォーマンスの「見える化」－

大会日：令和 2 年 10 月 16 日～10 月 31 日

・日本バレーボール学会第26回大会

発表者：久保田もか

題 目：スパイク技術指導ポイントと大学体育授業における学習者の理解度

大会日：令和 3 年 3 月 21 日～3 月 31 日

●その他（研究費申請・獲得状況など）

・2020 年度日本バレーボール学会調査研究費採択

研究代表者：久保田もか

研究期間：2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月末日

以上

氏名：佐藤冬果（平成 30 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

【研究題目】

Self-authorship の育成に向けた野外運動を教材とした大学体育に関する研究

【各課題名】

[課題 1] Self-authorship の理論的背景の整理および構造の検討

研究 1 Self-authorship の理論的背景の整理

研究 2 Self-authorship の構造の検討

[課題 2] Self-authorship の育成を意図した授業の実践および効果検証

研究 3 Self-authorship の育成を意図した授業の実践

研究 4 Self-authorship の育成を意図した授業の効果検証

[課題 3] 授業による受講生の Self-authorship 発達に影響を与えた要因の検討

研究 5 Self-authorship 発達に寄与する要因の検討

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

1) 佐藤冬果・窪田辰政・坂本昭裕

「オンライン授業への自然体験活動導入の試みとその成果－2020年度A大学『身体運動科学』授業報告－」、大学体育研究第43号、pp.57-67（2021年3月）

2) 高橋宏斗・佐藤冬果・渡邊直史・中丸信吾・熊澤桂子・野口和行

「2020年度夏季のコロナ禍における自然体験活動・キャンプ事業に関する実態調査：第24回日本キャンプミーティングの取り組み」、キャンプ研究 第24号、pp.65-72（2021年1月）

●学会発表

1) 佐藤冬果・大友あかね・小宮山咲希・坂本昭裕

「大学体育『野外運動』が大学生のSelf-authorshipに与える影響に関する混合研究法を用いた検討」、日本野外教育学会 第23回大会、2020年11月8日（Web開催）

2) 小宮山咲希・坂本昭裕・大友あかね・佐藤冬果・志賀亮太・日比野功宜

「青少年教育施設における自然体験活動の指導経験と教員の指導観に関する研究」、日本野外教育学会 第23回大会、2020年11月8日（Web開催）

3) 岡田成弘・坂本昭裕・佐藤冬果・渡邊万里映・松谷成

「キャンプ外の知識・情報とキャンプ中の体験はどのように融合するか：キャンプにおけ

る自然に対する態度の変容過程の検討」、日本野外教育学会 第23回大会、2020年11月8日
(Web開催)

●その他（研究費申請・獲得状況など）

1)ヤマハ発動機スポーツ振興財団 2020 年度 YMFS スポーツチャレンジ助成（奨励研究）
（助成期間 2020 年 4 月～2021 年 3 月、575,553 円）

2) ヤマハ発動機スポーツ振興財団 2021 年度 YMFS スポーツチャレンジ助成（基礎研究）
（助成期間 2021 年 4 月～2022 年 3 月、1,151,960 円）

以上

氏名：藤野和樹（平成 30 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

学修者本位の教育への転換が大学体育バドミントン授業受講者の主観的恩恵に及ぼす効果

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

1. 升祐二郎，佐藤優希，藤野和樹：バドミントン競技における動き出し時の大腿筋活動と移動速度の関係，バドミントン研究，2020 年 9 月．

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

1. 藤野和樹：大学体育バドミントン授業におけるサービス能力を向上させる授業内容の検討，第 4 回バドミントン学会大会，2021 年 3 月 6 日，Zoom オンライン．

●その他（研究費申請・獲得状況など）

科学研究費 若手研究 研究課題（20K19605）

大学体育バドミントン授業における競技経験別指導法の開発

研究期間（2020 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）

以上

氏名：笹子悠歩（平成 30 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

健康スポーツとしての軽登山の意義と、その実施方法に関する研究

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

- 1) 笹子悠歩, 照内明良, 井出里香, 油井直子, 安藤真由子, 山本正嘉：常圧低酸素室と富士山を利用した海外での高所登山のためのアクティブラーニングの試み. 登山医学, 2020. (印刷中) 査読あり
- 2) 山本正嘉, 照内明良, 笹子悠歩：登山のガイドブックに記載されているコースタイムの検討；運動生理学の視点からの検討. 登山医学, 2020. (印刷中) 査読あり
- 3) 井出里香, 油井直子, 笹子悠歩, 照内明良, 山本正嘉：富士登山における体幹 2 点歩行動揺計による動的歩行バランスの評価. 登山医学, 2020. (印刷中) 査読あり
- 4) 笹子悠歩, 上野由花, 山下なつみ, 山本正嘉：登山の励行が心身の健康に与える影響についての調査研究；ウォーキング励行者との比較から. 体育学研究 (印刷中) 査読あり
- 5) 笹子悠歩, 山本正嘉：週 1 回の低山登山を励行する中高年者の体力水準の経年的な変化について. ウォーキング研究 24: 3-11, 2020. 査読あり
- 6) 山口藍李, 笹子悠歩, 萬久博敏, 山本正嘉：背泳ぎの技術改善を目的とした陸上および水中での補助トレーニングの効果に関する事例的検討；ストローク局面における腕と脚の動作のタイミングとバサロキックの改善に着目して. スポーツパフォーマンス研究 12: 425-438, 2020. 査読あり
- 7) 末次航平, 笹子悠歩, 中村夏実, 山本正嘉：大学漕艇競技選手の基礎体力および漕技術の改善を目的としたローイングエルゴメータによる補助トレーニングの工夫. スポーツパフォーマンス研究 12: 371-382, 2020. 査読あり
- 8) 笹子悠歩, 山本正嘉：週 1 回の低山登山がもたらす恩恵とその具体的な実施方法について. 登山研修 35, 2020. (印刷中)
- 9) 笹子悠歩, 山本正嘉：登山を想定した体力トレーニングのためのポイント表（試案）の作成. スポーツトレーニング科学 22, 2021. (印刷中)
- 10) 鶴林晃介, 笹子悠歩, 山本正嘉：セパタクローにけるアタック時の打点の高さを向上させるための取り組み事例；体力的要因と技術的要因の両面からのアプローチ. スポーツトレーニング科学 22, 2021. (印刷中)
- 11) 森重輝, 笹子悠歩, 山本正嘉：サッカーの試合後半におけるプレーの失速を抑制し、パフォーマンスを改善するための取り組み事例；体力面と試合中の高速度移動距離に着目して. スポーツトレーニング科学 22, 2021. (印刷中)
- 12) 藤坂侑実, 笹子悠歩, 萬久博敏, 山本正嘉：新型コロナウイルスの影響下にもかかわらず自己ベストの更新に成功した女子平泳ぎ選手の事例；技術, 体力, コンディション,

および心理面での改善の取り組み. スポーツトレーニング科学 22, 2021. (印刷中)

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

- 1) 笹子悠歩, 照内明良, 井出里香, 油井直子, 安藤真由子, 山本正嘉: 低酸素室と富士山を利用した高所登山のためのアクティブラーニングの試み. 第 40 回登山医学会学術集会, 東京, 10・2020.
- 2) 山本正嘉, 照内明良, 笹子悠歩: 登山ガイドブックに記載されているコースタイムの特性; 体力科学の視点から. 第 40 回登山医学会学術集会, 東京, 10・2020.
- 3) 井出里香, 油井直子, 笹子悠歩, 照内明良, 山本正嘉: 富士登山における体幹 2 点歩行動揺計による動的歩行バランスの評価. 第 40 回登山医学会学術集会, 東京, 10・2020.
- 4) 笹子悠歩, 山本正嘉: 週 1 回で 4 回の軽登山が体力の改善および本格的な登山時の疲労軽減に及ぼす効果. 第 75 回日本体力医学会大会, 鹿児島, 09・2020.

●その他（研究費申請・獲得状況など）

なし

以上

氏名：山口大貴（平成 30 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

表題：スポーツ用自転車におけるペダリング技能の可視化とその活用に関する研究

研究課題 1：スポーツ用自転車におけるペダリング技能の可視化に関する研究

研究課題 2：大学自転車競技者の技能改善における可視化指標の活用に関する研究

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

1. 中井彩子，橋本直，山口大貴，山本正嘉
アップダウンのある自転車競技ロードレースの周回コースで最良のパフォーマンスを発揮するためのペース戦略の検討～競技力の高い女子選手を対象とした事例研究～，スポーツパフォーマンス研究，12：220-234，2020年5月．
2. 山口大貴，金高宏文，山本正嘉
スポーツ用自転車におけるペダリング技能の客観的可視化方法の開発：荷重と脚の使い方に着目して，スポーツパフォーマンス研究，12：287-301，2020年5月．
3. 山口大貴，金高宏文，山本正嘉
グループレッスンでの運動技能指導における SNS を活用した指導のポイント：自転車競技愛好者等に対する参加者同士の相互指導を誘発した指導事例を手がかりに，スポーツパフォーマンス研究，12：354-370，2020年6月．
4. 山口大貴，中井彩子，金高宏文，山本正嘉
指導者が持つ高度な自転車ペダリング技能を手がかりに短期間で競技者が技能改善できた事例～競技力が高い女子大学長距離競技者の1ヶ月間の取組み～，スポーツパフォーマンス研究，12：471-494，2020年8月．
5. 青柳唯，山口大貴，田川浩子，濱中良，小森大輔，金高宏文
女子棒高跳におけるポールの挙動と踏切・フォロースルー動作との関係：世界トップ競技者と日本人女子競技者の比較から，陸上競技研究，122：24-33，2020年9月．
6. フダラキスイオアニスヨルギラス，小原侑己，山口大貴，中村勇，山本正嘉
柔道競技を想定して考案した「クロスフィット」トレーニングの効果：大学女子柔道選手への適用事例，トレーニング科学，32：243-254，2021年1月．

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

無し．

●その他（研究費申請・獲得状況など）

無し．

以上

氏名：小島亜希子（平成 31 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

＜研究全体の表題＞

大学舞踊教育の教材「舞踊創作デザインシート」の開発に関する実践的研究

【課題Ⅰ】舞踊の創造的活動に関する大学生の認知

【課題Ⅱ】創作プロセスに着目した「舞踊創作デザインシート」の作成と有用性の検証

【課題Ⅲ】プロダンサーの経験知を反映した「舞踊創作デザインシート」の評価と追加検証

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

三輪亜希子，高木英樹，平山素子，豊永洵子

創作プロセスに着目した「舞踊創作デザインシート」の作成と有用性の検証. 大学体育スポーツ学研究, 18（早期公開），2021 年 3 月．査読あり

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

なし

●その他（研究費申請・獲得状況など）

なし

以上

氏名：霜鳥駿太（平成 31 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

表題：ポジティブ特性に影響を及ぼすスポーツ経験の抽出

【研究 1】 ポジティブ特性尺度の改訂

【研究 2】 ポジティブ特性と運動部活動経験の関係の検討

【研究 3】 ポジティブ特性に影響するスポーツ経験の抽出

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

該当なし

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

該当なし

●その他（研究費申請・獲得状況など）

該当なし

以上

氏名：山田盛朗（平成 31 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

・全体の表題

大学体育スノーボード実習における PCM 型授業の開発と有用性の検証

・各課題名

研究 1：アクティブラーニングとしての PCM 型スノーボード授業の予備的实践

研究 2：アクティブラーニングとしての PCM 型授業の開発と有用性の検証

研究 3：PCM 型授業の外的妥当性

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

なし

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

伊藤通子・李 洪千・山田盛朗・栗原哲彦・高橋うらら・高橋 博、コロナ禍におけるオンラインプラットフォームを利用したFDの取り組み、第27回大学教育研究フォーラム、3月17日・18日

●その他（研究費申請・獲得状況など）

なし

以上

氏名：小原侑己（平成 31 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

表題：大学女子バスケットボール選手が自分自身でトレーニングプログラムを考えることができるようになるための取り組み方法に関する研究

研究課題 1：選手が自分自身で問題解決策を考えてトレーニングを実行する試み

研究課題 2：選手と指導者が双方向で問題解決策を考えてトレーニングを実行する試み

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

1. 古川右京，小原侑己，山本正嘉

「怪我による長期のチーム離脱で低下した持久力を段階的に向上させ復帰を果たした大学サッカー選手の取り組み事例」

スポーツパフォーマンス研究，12：246-259，2020.

2. 小原侑己，山本正嘉

「ICT を活用したオンラインパーソナルトレーニング（OPT）の有効性と課題点：サッカー選手の有酸素性能力・筋力・筋パワー向上を目的とした取り組み」

コーチング学研究，34(1)：73-84，2020.

3. フダラキス イオアニス ヨルギオス，小原侑己，山口大貴，中村勇，山本正嘉

「柔道競技を想定して考案した「クロスフィット」トレーニングの効果-大学女子柔道選手への適応事例-」

トレーニング科学，32(4)：243-254，2020.

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

無し.

●その他（研究費申請・獲得状況など）

無し.

以上

氏名：森 実由樹（平成 31 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

表題：動作評価に基づいたコンディショニングが、体育系女子大学生のセルフコンディショニングに与える影響について

研究課題 1：体育系大学における新入生の動作評価の実態

研究課題 2：動作評価に基づいたコンディショニングが体育系女子大学生のセルフコンディショニングに及ぼす影響

●学術論文

1. 森実由樹，山本利春，笠原政志，清水伸子.
「スポーツ選手の体力測定評価システムの構築 ～第 4 報～」
国際武道大学武道・スポーツ科学研究所 武道・スポーツ研究，1: 61-64，2019.
2. 山本利春，清水伸子，笠原政志，森実由樹，西山侑汰.
「スポーツ活動中の熱中症予防対策と体育系大学の救急体制の強化 -運動クラブ活動場所における WBGT の計測調査から-」
国際武道大学武道・スポーツ科学研究所 武道・スポーツ研究，1: 29-36，2019.
3. 小西由里子，井上哲朗，森実由樹，立木幸敏，刈谷文彦，谷口有子，見波静，宮本瑠美，水島諒子.
「地域における健康・体力づくりの企画と実践・成果」
国際武道大学武道・スポーツ科学研究所 武道・スポーツ研究，1: 53-60，2019.
4. 清水伸子，山本利春，笠原政志，森実由樹，西山侑汰.
「体育大学におけるスポーツ傷害調査システムの構築」
国際武道大学武道・スポーツ科学研究所 武道・スポーツ研究，1: 45-52，2019.

●学会発表

1. 森実由樹，前田明.
「体育系大学新入生における Deep Squat 動作を完了できない者の身体的特徴」
第 6 回日本スポーツパフォーマンス学会大会プログラム：.
2. 櫻井健一，森実由樹，前田明.
「110m ハードル走における 1 台目から 3 台目の踏み切り動作時間の推移 -13 秒台の

競技者の動作時間の推移に注目してー」

第6回日本スポーツパフォーマンス学会大会プログラム：.

●その他（研究費申請・獲得状況など）

なし

以上

氏名：今城 遥（令和2年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

高等教育におけるアンドラゴジー理論に基づく「共生体育」授業の実践

研究課題Ⅰ：成人教育であるアンドラゴジー理論に基づく共生体育についての検討をおこなう。

研究課題Ⅱ：アンドラゴジー理論に基づく「共生体育」授業を設計・実践し、その効果を検証する。

研究課題Ⅲ：「共生体育」授業を受講することによる多様性に関する意識・態度・行動に及ぼす影響について検討する。

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

1. 今城遥、日野克博、栗田昇平：共生体育の実践に必要とされる体育教師の役割や資質能力一性の違いを包括した高等学校体育授業を通じて一、聖カタリナ大学人間文化研究所研究記要第25号、1-11、2021年3月

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

1. 澤江幸則・齊藤まゆみ・松原豊・杉山文乃・香田泰子・曾根裕二・今城遥：地域の学校体育におけるアダプテッド体育・スポーツの観点の定着を目的とした研修プログラムの検討I、日本アダプテッド・スポーツ学会（オンライン開催）、2020年12月

●その他（研究費申請・獲得状況など）

以上

氏名：北村麻衣（令和2年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

博論研究の表題：大学バスケットボールの意義に関する量的質的研究－多様化するキャリア選択との関連－

研究1：現役 WJBL 選手に対する心理尺度を用いた実態調査

研究2：WJBL 引退者に対する進路・キャリア選択に関するインタビュー調査

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

なし

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

なし

●その他（研究費申請・獲得状況など）

なし

以上

氏名：前原千佳（令和2年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

<表題>

日常の主體的な身体活動を促進するための大学体育体操プログラムの開発

【研究1】大学体育の体操授業の指導方針および内容に関する実態調査

【研究2】内発的動機づけに基づく大学体育体操プログラムの開発

【研究3】大学体育における体操プログラムが日常身体活動に及ぼす影響および継続性に関する研究

●論文作成

1. Inagaki, K., Shoji Y., Maehara, C., Sakairi., Y. Effects of G-ball Exercises on Mood States and Computer Task Performance, Sport and Olympic-Paralympic Studies Journal, 6, pp35-42, 2020.

●学会発表

1. 堀口文，本谷聡，松浦稜，前原千佳，新海萌子，長谷川聖修：スマートフォンを用いた大学体育授業の試みー機器の多機能性を活用した運動プログラムー，日本体操学会第20回大会，2021年3月13～21日，WEB研究発表会.
2. 松浦稜，檜皮貴子，堀口文，前原千佳，新海萌子，工藤実里，石原直幸，長谷川聖修：アクティブ・オフィスワークの試み（その3）ーボディマウス装置によるPC作業に着目してー，日本体操学会第20回大会，2021年3月13～21日，WEB研究発表会.
3. 本谷聡，堀口文，金井茂樹，杉井勇介，前原千佳，松浦稜：コロナ禍における体操フェスティバルの新たな開催形式に関する検証，日本体操学会第20回大会，2021年3月13～21日，WEB研究発表会.
4. 亀田まゆ子，前原千佳，松浦稜：大学体育オンライン授業での小さいGボール活用事例，日本体操学会第20回大会，2021年3月13～21日，WEB研究発表会.

●その他

なし

以上

氏名：蓬田高正（令和2年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

【研究題目】

学習方略の育成を促進する大学体育授業に関する研究

－野外活動を取り入れた授業を題材にして－

課題1：学習方略の理論的背景・使用規定要因を整理し、大学体育授業・野外教育における学習方略の位置づけ及び使用規定要因を明らかにする。

課題2：大学体育授業における学習方略・学習方略認知・大学体育に対する信念を測定する尺度を作成する。

課題3：大学体育授業における学習方略の使用プロセスを検証し、大学体育授業における学習方略の使用と規定要因との関連を明らかにする。

課題4：大学体育授業において、学習方略の使用を促すための集団での課題解決を含む野外活動を取り入れた介入プログラムの影響を明らかにする。

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

1. 蓬田高正・今西幸蔵：大阪市「こども夢・創造プロジェクト」が参加者の生きる力に及ぼす効果、日本生涯教育学会論集 41、2020 年

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

1. 松本英樹、伊原久美子、蓬田高正：高校体育「スポーツⅤ（野外活動）」の授業実践における成果と課題-通常時間内での一年を通した取り組み-、日本野外教育学会第23回大会、2020年
2. 蓬田高正・北澤太野：大学キャンプ実習が他者との関わりに及ぼす効果：自由記述レポートによる質的検討、令和2年度奈良体育学会大会、2020年

●その他（研究費申請・獲得状況など）

2020 年度天理大学学術・研究・教育活動助成（教育改革に資する活動に対する助成：助成期間：2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日）

以上

氏名：佐藤伸之（令和2年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

表題：トラッキングシステムを用いた選手の打撃評価システムの応用

ータイプ別選手のトレーニングの構築ー

研究課題1：トラッキングシステムを用いた打撃評価の考案

研究課題2：苦手コース改善トレーニングが打撃パフォーマンスに及ぼす影響

研究課題3：得意コース向上トレーニングが打撃パフォーマンスに及ぼす影響

研究課題4：打球速度向上の過程分析に基づくタイプ別選手のトレーニング方法の構築

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

- 1) .○藤井雅文，鈴木智晴，佐藤伸之，前田明：トラッキングシステムデータを用いた打者評価の検討，RJPS スポーツパフォーマンス研究，12，276-286，2020

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

- 1) .○若松朋也，佐藤伸之，藤井雅文，鈴木智晴，前田 明：ロングティーバッティングが大学野球選手の打撃パフォーマンスに及ぼす影響，第6回日本スポーツパフォーマンス学会大会，オンライン／SPORTEC2020会場，2020年12月2日
- 2) .○塩澤優一，佐藤伸之，藤井雅文，鈴木智晴，前田 明：野球におけるアンダースロー投手のパフォーマンスの変遷ーリリースポイントの変化に着目してー，第6回日本スポーツパフォーマンス学会大会，オンライン／SPORTEC2020会場，2020年12月2日

●その他（研究費申請・獲得状況など）

なし

以上

氏名：横山茜理（令和2年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

表題「バスケットボールにおける学生アナリストの戦術指導力育成方法の開発」

課題1：大学女子バスケットボールチームにおけるアナリスト育成方法に関する研究

課題2：学生アナリストの育成に関する研究

課題3：大学生バスケットボール選手における戦術選択の変化に関する研究

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

1. 横山茜理・畝中智志・松岡小春：バスケットボールにおける遠隔トレーニングから実戦へ向けた活動報告. 北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター年報, 第11号: 97-99, 2021.

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

該当なし

●その他（研究費申請・獲得状況など）

該当なし

以上